

言語政策研究やディスコース研究において、対象をマイクロレベルとマクロレベルに分け、その接続や連環を探究する数々のアプローチがある。マイクロとマクロは、発話と言語・規範、個人と国家・制度、場面と社会・文化、スモールトークとグランドナラティブなど、さまざまに指定される。一般的に、こうした分析手法には、マイクロレベルへの注目がマクロレベルの変容を説明したり促したりすることへの期待がある。それは、マイノリティとマジョリティ間のパワーの偏在を見定め、それを是正する道を探ることにも通じている。本研究会では、言語管理理論およびリズムアナリシスを用いた経験的研究事例をもとに、マイクロとマクロの接続や連環がどのように見いだされるかを提示する。複雑化・多元化する社会において、マイクロとマクロの複雑系を探究する言語研究の意義を再考する機会としたい。

言語政策研究 における マイクロとマクロの 接続と連環

——言語管理理論と
リズムアナリシス

◎プログラム

総合司会： 藺田浩樹（明星大学）

第1部（13:00～15:00）

マイクロとマクロの言語管理の 複雑系を紐解く

（言語管理研究会・言語政策と言語管理分科会）

研究発表① ミラー成三（青山学院大学）

「ユニバーサル・ミュージアムの言語管理」

研究発表② 上村圭介（大東文化大学）

「言語管理におけるマイクロとマクロの分離と再結合」

コメント 広瀬浩二郎

第2部（15:30～17:30）

伝統文化伝承・実践の越境 にみる言語政策的諸相

（日本言語政策学会・特定課題研究）

【ゲストトーク】

広瀬浩二郎

国立民族学博物館准教授。文学博士。専門は日本宗教史、触文化論。全首の文化人類学者としてユニバーサル・ミュージアムの提唱と実践に取り組んでいる。

「ウォーキング・イズ・ワーキング」：「ユニバーサル」の原点は平曲・警女唄にあり！」

【話題提供と演奏】

李昌燮（イ・チャンソプ / LEE Changseop / 이창섭）

韓国打楽器奏者。在日韓国人三世。1995年渡韓、打楽器を主体とする韓国伝統音楽サムルノリを追求すべく創立メンバー李光壽氏に師事。2001年より東京を拠点に日本各地で演奏と指導にあたる。音楽公演企画・出演のほか、映画や演劇などジャンル横断的に活動。

対談「韓国伝統音楽のリズム」（聞き手 猿橋順子）

研究発表③ 猿橋順子（青山学院大学）

「言語と社会のリズムアナリシス試論」

演奏 李昌燮

2023年 3月11日（土）

13:00～17:30（開場 12:30）

青山学院大学 アスタジオ

地下1階小ホール

（東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅より徒歩5分 / <http://www.lifology.jp/acsess.pdf>）

主催：青山学院大学国際研究センター

参加費：無料

申し込み：下記のURLに要事前登録

（定員50名・先着順）

<https://bit.ly/3kjR4bL>

お問い合わせ：猿橋順子

jsaruhashi@aoyamagakuin.jp

会場アクセス

